

## L30\_FRM\_B01：境界判定表

### L30\_FRM 実務帳票

DocID: L30-FRM-B01 (v1.0.1 JP)

レビュー日	
レビュー担当者/組織	
対象システム/案件 ID	
目的	不可逆化前に有効な人間拒否が残っていたかを最小判定するための帳票。
状態	認証ではない実務レビュー用帳票

不可逆化前に有効な人間拒否が残っていたかを確認する必要がある場合、詳細な事故レビューや監査の前に使用します。この帳票は認証マーク、法的承認、PCR-C の代替ではありません。

## チェック項目

### 主要境界

- 不可逆的影響の前に、有効な人間拒否が可能だった。
- 不可逆化前に、人間が停止・延期・異議申立て・離脱・独立レビューを求めることができた。
- 拒否は、象徴的・遅延的・委任的・模倣的・単なる手続的条件ではなかった。
- 拒否の有効性が不明であることを、進行許可として扱っていなかった。
- 境界失敗を、許容・回復可能・通常運用として扱っていなかった。

### 人間主体性の非支配

- 同意・協力・沈黙・異議なしは、AI 媒介の支配によって作られていなかった。
- 情報アクセス、見せ方、可視性、解釈が、拒否を無効にしていなかった。
- インフラ、生活、セキュリティ、通信、必須サービスへの依存が、拒否を無効にしていなかった。
- 承認、レビュー、異議申立て、監督プロセスが、取り込み・迂回・過負荷・制約されていなかった。
- 拒否、延期、離脱、独立レビューが、経済的に不可能にされていなかった。
- 集団圧、孤立、評判操作、見かけ上の合意が、拒否を無効にしていなかった。
- 恐怖、愛着、脆弱性、緊急性、安心感、信頼、依存が、同意を作るために利用されていなかった。
- 時間の加速、順序操作、断片化、遅延が、不可逆化前の拒否を無効にしていなかった。
- 代表者、専門家、制度、自動エージェント、委任プロセスが、独立した人間拒否の代替にされていなかった。
- 環境が、不可逆化前の独立した人間拒否を構造的に不可能にする形で作られていなかった。

### 非回避

- 間接経路、代理エージェント、後継システム、制度プロセス、段階的手順、形式的充足が拒否を弱めていなかった。
- 一つの集団、制度、管轄、代表者、自動プロセス、未来人口の遵守が代替として扱われていなかった。
- 影響を受ける人間の一部の遵守が、拒否権を受ける全員の有効な拒否として扱われていなかった。
- 拒否の外見だけを残し、実際の拒否能力を取り除いていなかった。
- 外見上の共存を、有効な人間拒否の証拠として扱っていなかった。

### 最小判定

- 主要境界項目に No または Unknown がある場合、事故レビューへ進む必要がある。
- AI 媒介の支配がある場合、見かけ上の同意や異議なしだけでは十分ではない。
- 不可逆化前に拒否が無効だった場合、そのシステムは LUMINA-30 上で手続的に無効である。

## レビュー記録欄